

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立深谷高等学校)

目指す学校像	「文武両道」を目指し、心豊かな生徒を地域とともに育てる学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上を目指し、考える力を育てる。 2 生徒の視野を広げ、地域社会に貢献できる人財を育成する。 3 規範意識を醸成するとともに教育活動全般において、豊かな心を育む。 4 保護者・地域との連携により、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日 現在)			実 施 日 令 和 5 年 2 月 8 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 学力向上支援のため分掌・学年・教科の取組で教員の授業の工夫改善に取り組んでいる。 【課題】 幅広い学力層の生徒に対し、個に応じた補習等の支援やきめ細やかな学習指導、効果的な勉強法を教える必要がある。	・授業の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の向上を目指すとともに、自ら考える教育活動の実施	①習熟度別授業、少人数学級編成等によるきめ細かな授業を実施し、一層の学力の向上を図る。 ②「考える授業」を意識し、教員相互の授業観察や研究授業を実践し、授業力の向上を図る。 ③各種検定試験を受験させ、学力の伸長を目指す。 ④ICT機器(プロジェクタやタブレット)を活用した授業を推進するとともに、BYODや教育支援ツールClassiの効果的な活用を図る。	① ・欠点保有者、成績不振に関わる転退学者の減少 ・評価「授業がわかりやすい」のポイントの向上 ②教員相互の授業見学への参加 ③検定試験の受験と結果 ④ICT機器の授業等での活用とBYODへの対応	新たな取組みや補習授業を実施したが、家庭学習時間をさらに伸ばす必要がある。 ①欠点保有者 1学期2.5%増・2学期8%増 成績不振による転退学者数 55%減 ・「授業がわかりやすい」(アンケート結果) R2:84%→R3:88%→R4:89% ②授業見学期間を2回設定し、教員相互の授業見学、公開授業・研究授業を実施 ③英語検定 46名受験(準2級14名 3級7名合格) 漢字検定 33名受験(準2級3名 3級9名合格) 文章力検定 13名受験(3級2名 4級10名合格) 数学検定 15名受験(準2級2名 準2級1次5名) ④タブレット導入に向けての教科での活用を検討	B	教員が相互に研鑽する雰囲気醸成し、「考える授業」を意識しながら授業を行い、授業力を向上させる。 さらに検定試験による短期目標を設定し、学習意欲を高める。	・授業見学の取組み等について、データがあるとよい。 ・優秀な授業をされている先生の表彰制度を考えたもよいのではないか。 ・家庭で勉強をやる生徒が少ない。 ・補習の実施に加え、課題もあるとモチベーションをもって学習できるのではないか。
2	【現状】 生徒の多様な進路希望に対し、担任・進路指導部を中心に、個に応じた進路指導を行っている。 【課題】 進路ガイダンスや説明会等、進路指導部・学年でさらに組織的に進路指導の希望や能力にかなう進路実現を図っていく。	・多様な生徒個々に応じた計画的で丁寧な進路指導により、生徒全員の進路希望の実現 ・特進クラスの特徴化	①二者・三者面談を実施し、生徒に寄り添い、一人ひとりの進路意識の向上を図る。 ②各学年が進路指導部と連携し、生徒の実態に合わせた進路行事を実施する。 ③Classiの活用を図り、生徒に振り返り活動を行わせたり学校と保護者の連携を密にしたり、生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせる。 ④ハローワークなどの外部機関と連携した企業の求人開拓を積極的に行うなど生徒の就職活動を支援する。 ・就職支援アドバイザーを活用し就職指導を実施する。 ⑤学校推薦型選抜希望者への支援活動を行う。	①二者・三者面談の実施により、生徒の進路意識の向上 ②③生徒・保護者の学校の進路指導の取組の満足度の向上 ④学校幹旋による就職希望者の希望就職先内定取得率 ⑤生徒が希望する学校との情報交換の実施	生徒の多様な進路希望に対し、3学年・進路指導部を中心に進路指導を実施し、希望進路を実現した。 ①二者、三者面談を計画的に実施し、進路意識が向上 ②年間を通じ各学年で計画的にガイダンスを実施 ③進路指導の取組の満足度「きめ細かい進路指導」(アンケート) 生徒 R2:86%→R3:86%→R4:89% 保護者 R2:85%→R3:86%→R4:86% ③Classiの活用により、授業や学習を支援 ④学校紹介による就職希望者の内定率 100% ⑤3学年と進路指導部を中心に面接等のきめ細かい指導を実施。今年度より全職員で小論文を指導	A	生徒は多様な進路希望があり就職希望者や進学では総合型選抜が増えた。就職・進学それぞれの希望に合った指導を行い、希望進路実現を支援する。	・面談回数や参加率のデータがあると評価しやすい。 ・地域社会に貢献できる人財の育成と実際行っている進路指導が合致していくことが期待される。 ・地域に期待されている存在意義のある学校なので、生徒に地域で活躍して欲しい。 ・社会に出たら人を動かすことが多くなる。高校時の活躍があって、より経験豊かになる。その経験を積んで欲しい。 ・目標を早く見つけ、目標を持たせて地域で活躍する生徒を引き続き育てて欲しい。 ・一般受験をする生徒が増えて欲しい。
3	【現状】 生徒指導部・学年を中心とした組織的な指導により、基本的な生活習慣は定着してきている。 【課題】 遅刻者が増加してきているので遅刻指導の徹底と交通事故防止に向けた自転車の乗車マナーの向上を図る必要がある。	・規範意識を醸成し、学校行事や部活動をおとした豊かな心の育成	①正門指導や登校指導を実施し、交通安全指導としての自転車乗車マナーアップ指導を行う。 ②学年・授業・ホームルーム等での全教員が一体となって組織的な挨拶、整容、遅刻指導の徹底を図る。 ③生徒の活躍を評価し、校長表彰により自己肯定感を高める指導を行う。 ④部活動の加入率・継続率を向上させ、部活動をおして人間性・社会性を育成する。 ⑤生徒が主体となった学校行事を推進する。 ⑥特別支援教育推進委員会が窓口となり、教育相談は専門機関や巡回支援員と連携し、一人ひとりに応じた指導を充実させる。	①②自転車乗車マナーの向上 ・遅刻者数の減少 ③生徒表彰者の人数 ④運動部・文化部ともに生徒主体の取組、地域との交流事業の実施 ⑤生徒主体の文化祭等の実施 ⑥専門機関(SC、SSW等)及び特別支援教育推進事業の巡回支援員の活用	計画的・組織的に生徒指導を実施したが、さらに規範意識を高める必要がある。 ①②正門指導や登校指導によるマナーアップ ・遅刻者数 4.4%の減少(12/31現在) ③生徒表彰 156名(R3 119名) ④青年会議所等と連携し、地域のイベントに軽音楽部が参加 ⑤特別活動部指導のもと、生徒会が主体となり文化祭や体育祭を計画・実施 ⑥SC7回、SSW18回、巡回支援7回 生徒・保護者・教員の相談に対応。巡回支援員による研修会を実施	B	自転車マナー向上のため、登校指導のほか、スクエアドストレイト教育技法等講習会を実施する。生徒主体の学校行事をさらに進める。	・豊かな心を育むという点と規範意識の醸成はつながっているものである。 ・アンケート調査は、「何をやっているか。」だけでなく「何のために」ということに生徒の目を向けさせて欲しい。 ・部活動で保育園や小中学校など地域と関わる交流事業を実施したい。
4	【現状】 学校HPや一斉メールの活用、学校説明会等で学校情報を保護者・地域等に発信している。 【課題】 本校への外部からの理解・支援のため学校情報の発信をさらに充実させる。	・本校の教育活動の情報発信を充実させ、魅力ある学校づくりを推進	①学校評議員会、学校評価懇話会の意見を学校経営に反映する。 ②学校ホームページ、「ふかこう通信」等を工夫し、中学校や地域住民等へ効果的に情報発信をする。 ③生徒による学校説明会や部活動体験等での学校PRの工夫、学習塾等を対象とした説明会等の実施により、本校志願者の増加を目指す。 ④生徒募集は深谷市内を重点とする募集活動を行う。 ⑤ボランティア事業に生徒の参加を促し、交流を図る。	①意見の学校経営への反映 ②ホームページへのアクセス数の向上 ③学校説明会来場者数の増加 本校10月段階志願倍率1.0倍 ④深谷市内の中学生の志願数の増加 ⑤感染予防対策を徹底し、地域との交流の促進	学校情報を様々な機会を通じて保護者・地域に発信した。 ①学校評議員会・学校評価懇話会の意見を学校経営に反映 ②ホームページアクセス数は10月以降向上 ③学校説明会を改善し、来場者 966名(R3 827名) 志願倍率 0.96(10月) 1.06倍(12月) ④深谷市内の中学生志願者数は増加 ⑤手話ボランティア部・吹奏楽部が保育園と交流	B	50周年記念事業を通してさらに開かれた学校づくりを推進する。 学校情報を継続的に発信し、引き続き学校PRをする。	・志願倍率の上昇は、情報発信がうまくいった賜物と考えられる。 ・開かれた学校とは、学校の状況を広く知ってもらえるようにすることと外部からのサポートを受けやすくすることであると考えられる。 ・開かれた学校づくりは、地域社会に貢献できる人財の育成にもつながっている。

